



始めてから一年半で 京都府代表に

囲碁に興味を持ったのは、中学3年の終わり頃。漫画『ヒカルの碁』を読んだのがきっかけだった。

「気にはまってしまう。そのうち自分でも打ってみたいと思うようになり、家の近くの商店街にあった囲碁教室へ通うようになりました。その先生が厳しい方だったのが、私にとっては良かったんだと思います。ほんとうに真摯に教えていただいたので、今でも感謝しています」。

高校2年になると、大会でも目立った成績を収めるようになる。京都府高等学校芸術文化連盟囲碁部門大会で優勝。全国高等学校総合文化祭囲碁部門団体戦に府代表として出場し、3位入賞を果たす。3年の時には、文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権の府代表としても戦った。

誰でも楽しめるのが 囲碁の魅力

ところで、本学に囲碁部はない。関西にも強豪と呼ばれる部を擁する大学はあるが、進学にあたり、上村さんは本学を選んだ。

「囲碁で良い成績を残したいという気持ちはありますが、それ以上に大好きな囲碁



自分史以上、
想像以上!

「想像もなかった自分史」を
始めた学生の肖像

Vol.01

interview : 松岡 駿弥 / 八木 真奈美 / 橋 慶和

大好きな囲碁を
多くの人と楽しみたい。



経営学部 経営学科 3年生
Kanon Uemura
上村 花音さん

をもっと多くの人に広めたいという思いのほうが強くて。いずれは囲碁教室を自分で開きたいなど思っている。経営学部を、そして2年次からゼミ選択ができる追手門を選びました。

アルバイトでも囲碁の普及に携わる。関西棋院が運営している「こども囲碁道場・茨木校」や碁会所で、アマチュア棋士として講師を務めている。

「囲碁は難しいもの、と思われがちですが、実は覚えることもそう多くなく、誰でも楽しめるゲーム。定石のようなものもあるにはありますが、子供たちを見ていると自由に打って楽しんでいますから。一緒に打っているこちらが勉強になることもありますよ」。

追手門にも 碁を打てる「場」を

そうした普及への取り組みが認められ、昨年12月には本学の校友会から学生表彰を受けた。しかし上村さんは、まだまだ自身の普及活動が十分だとは考えていない。

「学内にも、囲碁を楽しめる場を作ってほしい。ゆくゆくは囲碁部も創部できればいいなと考えています。囲碁には勝つ喜びもありますが、まずは打つことを楽しめる人の輪を広げていきたいですね。囲碁部に興味のある方は、ぜひ私に声をかけて頂ければと思います」。